

第 15 号 (2015 年度 後期)

養 寿 寺 だ む り

発行日 平成 28 年 1 月 1 日
編集・発行 真宗大谷派 養寿寺
〒473-0924 豊田市花園町屋敷56
TEL&FAX (0565)52-4470
E-mail n-makino@hm.aitai.ne.jp
ホームページ 花園町養寿寺で検索

花園町養寿寺

検索

老いと病の先にある命の終わり

「いつせ死んでしまうのに、人はなぜわざわざ生きるのか？」

こんな哲学的なテーマについて数ヶ月、いろいろ考えさせられている。日々の暮らしに四苦八苦されている人から見れば、「暇人の道楽だ」などとお叱りを受けるかもしれない。哲学者気取りでいるわけではない。考え出したきっかけは、昨年の六月二十日、当時八十四歳であった私の母親が意識朦朧とし始め、救急車で病院に担ぎ込まれたことに始まる。母は重度の肺炎であった。「延命措置についてはどうお考えですか」という医師の言葉に、この深刻さをはじめ理解した。幸いなことに抗剤(肺炎の炎症を鎮める薬)がよく効き、三週間ほどで退院できた。それから五ヶ月後、今度は心不全で入院した。退院して一ヶ月も経たないうちに圧迫骨折でまた入院。この入院で母はいわゆる『寝たきり』になった。そこに入院中にまた肺炎を起したのであった。身体のいろいろな機能の衰弱が一気に進んだ。食事もドロドロにしたものを、誤嚥(食べたものが肺の方へ流れていくこと)を防ぐための手順で食べさせないといけなくなった。

その一方で、運の良い偶然もあった。初めて肺炎で入院する一ヶ月ほど前、たまたま町内の回覧板で見た『認知症予防講座』に参加することを母に勧めた。とりあえず電話してみたのが縁で、その後、ケアマネージャーを紹介されたのである。私たちの家族にとって、介護の問題が本格的に始まる前に有能な司令塔を得たようなものだった。知識の乏しい私たちは、これで救われた。骨折の治療を終え三月に退院した後は、その方の助言も踏まえ、こちらの要望で自宅ではなく介護老人保健施設(略して老健、原則入所期

間は約三ヶ月)に母を入れていただいた。

老健の職員の方々の私の母に対する手厚い介護には頭がさがる。下の世話はもちろんのこと、食事に関しても特定の角度を維持しながら、ゆっくり時間をかけて口に食べ物を運んでいただいている。そして、食後は誤嚥防止のための口腔ケアも伴う。三度の食事の他に、三時のおやつまである。母の部屋には、三時間ごとに身体の向きを変える表が貼ってある。一日何度も、血圧や体温、血中酸素飽和度を測定していただいているのである。リハビリや食事でも母の状態に適合するように考慮されている。また、痰の吸引や酸素マスクで高濃度酸素を与えてくださることもある。ちなみに母は要介護度5だ。約八ヶ月間このように十分な介護を受けながらも、高齢の母は体調が悪化し、五回も老健から救急車で病院に運び込まれたのである。その都度、肺炎および多臓器不全の状態であるとの診断。入院中は肺炎の薬を投与することが主な処置であることいつ死んでも不思議ではないとの説明を受けた。ここ一ヶ月ほどは、母はうなずくか首をかすかに振ることを繰り返しかできなかったが、その時でも担当の医師からは、「意識はまだしっかりしているほうですね」と説明をつけた。高齢者の終末期医療の実態を垣間見た気がした。結局、母の見舞いに行っても、眠っていることが多く会話もほとんど無い。

老健や病院の方々は、それぞれのプロの立場で使命感を持って母の命を支えてくださっている。息子としては、感謝の気持ちでいっぱいであるが、申し訳なくも感じってしまうのである。女性教員として戦後から長年働いてきた母は、それなりの年金があり家族に金銭的負担を強いているわけではない。老健や病院でお世話になっているので介護の負担もない。たいへん恵まれたケースであると思ってしまう。しかし、『命の尊厳』

を説く立場にある僧侶ならば、絶対に口にすべきことではない思いが私の頭をよぎる時がある。私の心の中で悪魔が次のように叫べと命じる時がある。「ヘルパーさん。看護師さん。もう十分です。母の世話はおぼほどいいですよ。母は人生をもう十分に生ききったんですから」と。数十年前の医療体制や介護技術であったならば、母はおそらくもっと早い段階で死んでいたに違いない。医療や介護の進歩のおかげである。ありがたいことなのだろうが、今の母を見てみるとそのことが本当によかったと素直に喜べないのである。こんなことをグダグダ思いながらもその一方で、今も看護師やヘルパーの方々が懸命に私の母のケアをしてくださっている。「だったらあなたがやりなさい！」と怒られそうな気がして、その方たちにまかせっきりの自分の身勝手さで胸が痛む。

高齢社会の今、高齢者の医療負担・介護負担がその家族に重くのしかかり、痛ましい事件もおきている。経済的合理性をもとに、高齢者の命の問題が議論されているのは寒々しい感じがしなくもない。しかし、『なぜ生きるのか』という人間存在の根本的な問題を、医療や介護という現実的な問題と絡めて、いろいろな角度から考える良い機会だととらえてもいいのではないか。ある医師は、「命を救うという正義のために、死を敗北と見なす傾向が医療にはある」と指摘する。医療の専門家さえも高齢者の終末期についていろいろな考え方や疑問があるようだ。一方、始まりがあれば必ず終わりもあるという諸行無常の教えが仏教の基本にある。人の命もまさに無常なのだ。この問題には正解なんて無いかもしれない。だが、一人ひとりが『老いと病の先にある命の終わり』についての考えを深め、話し合っていくことは極めて大切なことではないだろうか。

(十二月一日 住職記)



病室の風景



私の最期は…?



アジアの仏教国スリランカ

横尾 明親

(略歴)

真宗大谷派教師
スリランカ国立仏教パーリ大学日本語講師。

安吾って知っていますか

安居(あんご)とは、お釈迦様が、雨季に、お坊さんが托鉢(たくはつ)に出ることを禁じられ、そのお坊さんたちが僧院で集まって修行と勉強に励んだことをいいます。

インドでは、大雨で川が溢れたり、道がぬかるみます。外へ出れば、虫をふんだり、生き物を傷つけるので、托鉢を禁じられたと伝えられています。

中国や日本でも、その伝統は伝わっています。夏には僧侶の修行や勉強会が行われています。真宗でも、本山に全国の僧侶が集まって学習する場があり、安居と呼ばれています。また、真宗寺院では、夏に早朝の法話会などがありますが、これもその伝統の一部です。

スリランカでは、八月下旬から十月中旬までが安居となり、僧侶が集まっての修行が行われます。その中でも特に重要な行事が、この安居明けに行われる「カティナ」祭りです。在家の仏教徒が集まって、切り分けた布で僧衣を作り、三か月間の、修行に専念した尊い僧への衣の布施を行います。



お経を朗読する僧侶



読経する一般信者



布を作る女性信者



布を受け取る僧侶

います。お経の中でも、この安居明けの衣の布施が、特に貴重なものと説かれています。多くの人々が列を作って、布と僧侶の日用品を捧げるために寺に向かいます。そして、これを僧団に寄進します。お坊さんたちは、集まって、その特別な布を受ける僧を決める儀式をします。

私が滞在するお寺でも、カティナ祭りが十一月二十二日に、多くの人々が参加して行われました。前日夜には、特別に作られた祭壇の中で、僧侶が交代しながら徹夜でお経を唱えます。多くの信徒も参加し、僧侶の声に合わせて経典を朗読します。明け方には、在家者の家を出発した行列が、布を捧げるため、寺の境内に入って来ます。多くの人が、この布にさわって功德を受けようと殺到します。朝の法要が始まるころには、境内は人であふれ、徹夜した信徒のために給食が出されます。徹夜法要の最後には、祭壇に置かれたピリットヌーラ(護呪の糸)を、信徒の手首に二人つづにお守りとして結びます。他にも多くの儀礼が行われ、多くの人々の声が、一日中境内で聞こえます。カティナ祭りの中心が、この寄進された布を一日で衣に仕立てることです。多くの女性信徒が集り、布を小さく裁断して、皆が少しづつ手伝ってカティナ衣に仕立てます。

お釈迦様が説かれたように、田のような形に、五条、七条というように布を縫っていきます。衣で象徴される僧団は、功德を生む福田だと、思われています。日本仏教の袈裟もまったく同じような原理で作られています。

安居という仏教伝統の中にも、遠く離れた日本仏教との共通性を感じることを実感させられました。

みんなのお寺 養寿寺

一・蓮華の会(書いて味わう御文)

本年度も九月から「書写していただきながら御文を味わう集い『蓮華の会』」に十名ほどの方がご参加され、予定していた六回の集いをつつがなく終えることができました。昨年度、始めた『蓮華の会』ですが、本年度はより多くの方々に参加いただきました。慌ただしい日々の中で、お寺という静寂の空間に身を置き、心落ち着いて取り組んでいただけなのが良かったのかもしれない。なお、次年度は、親鸞聖人の和讃を題材として平成二十八年度『蓮華の会』を企画しています。



蓮華の会 その1



蓮華の会 その2

二・御仏供米料 お礼と経過報告

今年度より養寿寺にご縁をいただきありがとうございます。花園町内の方々より、御仏供米料をご寄付いただきました。

六月中旬の土日を中心に養寿寺総代、養寿寺世話方、御仏供米料の世話方、合計十九名で花園町を九地区に分け、二人一組になり各自宅を訪問させていただきました。次回の『養寿寺だより』にてより詳しい一年間の報告をさせていただきますが、概略をお伝え申し上げます。

一・「寄付いただいた家」

〓 三百八十一軒

二・「寄付いただいた金額合計」

〓 九十九万二千三百円

まずもって、みなさまのご協力に対し心より感謝申し上げます。

みなさまからいただいた尊いお志をしっかり胸に刻み、養寿寺住職はじめ関係者一同、お寺の行事や施設の充実に励んで参ります。なお、ご寄付いただいた御仏供米料の支出につきましては、

- 一・年二回の『養寿寺だより』印刷費
- 二・本堂の火災保険の充実
- 三・本堂置表替え費用の補助 など

を追加させていただきました。この点については、養寿寺世話方を中心に慎重に検討し、適切に使わせていただきます。さらに、みなさまからいただいた貴重なご意見などができる限り反映させ、次年度以降に生かして参りたいと思います。



御仏供米料についての打ち合わせ



ご自宅訪問の様子

平成二十八年度 年忌 早見表

| | | |
|-------|--------|-----|
| 一周忌 | 平成二十七年 | 「逝去 |
| 三回忌 | 平成二十六年 | 〓 |
| 七回忌 | 平成二十二年 | 〓 |
| 十三回忌 | 平成十六年 | 〓 |
| 十七回忌 | 平成十二年 | 〓 |
| 二十三回忌 | 平成六年 | 〓 |
| 二十七回忌 | 平成二年 | 〓 |
| 三十三回忌 | 昭和五十九年 | 〓 |
| 三十七回忌 | 昭和五十五年 | 〓 |
| 四十三回忌 | 昭和四十九年 | 〓 |
| 四十七回忌 | 昭和四十五年 | 〓 |
| 五十回忌 | 昭和四十二年 | 〓 |

年忌法要のことはもとより、ご自宅の仏壇の

こと、お布施のごなどご相談いただくことも
仏教に触れていただくことに通じると思いま
す。遠慮無く相談ください。

(☎) (〇五六五) 五二一四四七〇)

本年度 御依頼割当のご報告

本年度 本山からの御依頼額

一〇三万五千四百円

(同朋会員志四万二千五百円含む)

みなさまのおかげをもちまして、早期に、
しかも、御依頼額を遥かに上回る額(約
一二〇%)を納めることができました。心より
御礼申し上げます。

なお、この本山御依頼割当(経常費)につ
きましては、本山収骨・院号申請に対する御懇志
を充てさせていただいております。

(一) 本山須彌壇収骨

樹神ツユ子様 川嶋静子様

鈴木将文様

* 一体 十二万円の志納

(二) 院号申請

樹神イツ工様 川嶋静子様

樹神公夫様 都築和夫様

高木均様 柘植敏幸様

稲垣壽男様 川嶋良太様

寺田隆男様 河合英二様

(順不同)

* 院号申請 八万円の志納

(三) 同朋会員志

養寿寺世話方会計様より

養寿寺施設や備品の 充実についてのご報告

(一) 養寿寺庭整備工事

四万五千二百六十円

(二) 本堂畳の表替え(補助あり)

四十八万八千九百円

《二十万円の世話方会より補助》

(三) 本堂簡易下駄箱(二個)
五万一千円



庭工事



本堂畳表替え



簡易下駄箱



新しくなった本堂の畳

なお物品購入並びに施設充実のための費用に
ついでには主に養寿寺に御志納いただいた祠堂金
より支払っております。本年度は、

久田龍夫様 山田幸男様

鶴田松己様

右記の方より祠堂金を御志納いただきました。
心より御礼申し上げます。

本年度七月から十二月までの 主な行事ご報告

一・法話会

九月二日に養寿寺世話方主催の秋の法話会
(講師：堀田護先生)、十月一日には、養寿寺同
朋会主催・養寿寺世話方協賛の秋の法話会講
師・伊奈祐諦先生をそれぞれ執り行いました。
昨年度と同じように大勢の方にご参加いたさ
しました。

養寿寺同朋会の方々には、お斎(とき)のお
世話をしていただきました。また、養寿寺世話方
女性の方々には、仏具の『おみがき』をして
いただきました。



法話会 堀田先生



おみがきの様子



法話会 伊奈先生



養寿寺同朋会のみなさん

二・早朝こころの元気塾(暁天講座)

八月の五日〜七日の三日間、早朝『心の元
塾』を執り行いました。

一日目 見田隆鑑先生(桐山女学園大学准教授)

二日目 戸松憲仁先生(岡崎市福万寺住職)

三日目 久米賢一先生(豊田市社会福祉協議会
参加人数百十一名で、今までで一番多くなりま
した。来年度もさらなる充実を図りながら実施
していく予定です。また、大谷派僧侶にこだわ
らずいろいろな分野でご活躍の先生にお話いた
さし、この行事の独自性を出していくように心が
けます。



こころの元気塾 その1



こころの元気塾 その2

三・永代祠堂法要 九月二十三日(水・祝)

本年度も該当の方には連絡申しあげたところ、
八〇名以上の方にお参りいただきました。法
要の後、法話の部では、真宗大谷は僧侶、北
野隆之先生に「絵解き法話」を行っていただき
ました。また、お斎(昼食)は、特製の精進料
理をお出ししております。



永代祠堂法要の様子



永代祠堂法要 お斎の様子

四・報恩講

十月二十三日〜二十五日の三日間、養寿寺報
恩講を厳修しました。今年も、法要の形式は概
ね同じで、スクリーンに正信偈を映し、お読み
いただきやすくなりました。また、法話について
は初日は養寿寺住職、二日目は等周寺坊守の天
野美津子先生。最終日は作家の和田真雄先生で
した。本年度も、永田や仏壇店さんに出張販売
を行っていただきました。御志納いただいた方
は二〇六名。御志納額は、六十万五千円でした。
多くの方々よりご参詣、ならびに御志納賜りま
したことを心より感謝申し上げます。ありがた
いこと三年連続で報恩講の御志納者数は増え
ております。養寿寺世話方のご尽力のおかげで
あると感謝申し上げます。



報恩講 1



報恩講 2

六、お寺でラジオ体操 お経のお稽古
 本年度も八月二十五日～二十八日の四日間、朝の六時半から『お寺でラジオ体操とお経のお稽古』を実施いたしました。



団体参拝 東本願寺



団体参拝 昼食の様子

十一月二十四日、京都本山東本願寺報恩講参拝および研修旅行(一日)に養寿寺から9名の方にご参加いただきました。二十四日の午前の方要にお参りし、京都駅前『ハトヤ瑞鳳閣』で昼食をとりました。その後、修復のなされた平等院を訪れました。穏やかな晴れの日で、格好の行楽日和。本山参拝のみならず、秋を愛でる旅となりました。来年度も、本山参拝と研修旅行(一泊二日)を予定しておりますので、ご参加ください。

五、高岡組門徒会主催

本山報恩講団体参拝



養寿寺世話方



報恩講 3



養寿寺世話方



報恩講 4

八、花園町 地蔵盆
 今年も八月下旬に、花園町の四力所で地蔵盆が執り行われました。町の安全を願う道祖神信仰と仏教が融合したものとされています。確かに、道が交わる角や町の入口といったような場所にお地蔵さんが立っておられます。町の安全は地域の連携を深めることが大切だと言われています。地蔵盆を機縁とし、地域の人がお



戦没者墓前追悼法要



戦没者 追悼法要

追悼法要、ならびに、十一月十四日に花園町戦没者追悼法要が花園町戦没者遺族会主催で執り行われました。養寿寺本堂南側に先の大戦で国のために亡くなられた方のお写真が掛けられています。戦後七十年が経過しました。この間、あの悲劇は繰り返されておられません。非戦の誓いと平和への願いを込めた特別な法要と位置づけ、お寺としてもこの法要を大切にしています。

七、お盆の戦没者墓前追悼法要

養寿寺での戦没者追悼法要



本堂前に並ぶこどものはきもの



正信偈の練習

花園子供会や花園郵便局のご協力により、四十名以上の方にご参加いただきました。正信偈を読むお稽古をしましたが、改めて子どもの習得能力の見事に驚きました。毎回、子どもさん向けのお話をさせていただきました。



横に寝かせます



立てません

【質問】 お線香はどのように焚いたらよいのですか。
 【回答】 通常の仏事では、左の写真のように青磁色の土香炉(通常、仏教の大切な概念である『縁』を表すため複雑に絡み合う唐草が描かれています)に線香を適切な長さに折って横に寝かせます。立てません。何回折るのかは土香炉の大きさによるもので、特別な回数はありません。また、マッチの燃えかすを入れるのは避けるべきです。

仏事にまつわるエトセトラ『9』

九、合同盂蘭盆会
 さる八月十三日に初盆を方々を対象とした合同盂蘭盆会を執り行いました。通常のお寺の行事と異なり若い方の参詣が多く、今後も大切にしていこうと予定しています。



合同盂蘭盆会



上州屋前の地蔵盆



ふれあいクラブ 地蔵盆

互い顔を合わせ、話をすることができれば町の安全に役立つことになるのではないのでしょうか。

平成28年6月までの主な予定ご案内

- 12月31日(木) 除夜の鐘 11時45分から
- 1月1日(金) 修正会 午前0時から 正信偈を読みます。
- 1月4日(月) 養寿寺主催 書き初め会 午前中
- 3月20日(日) 蓮如忌第1日 午後 勤行と法話
 法話講師 三重県 正實寺住職 藤本愛吉先生
- 3月21日(月) 蓮如忌第2日 午前 勤行と落語 お斎(とき)
 午後 音楽法要と落語
 落語 笑福亭仁智 師匠 と お弟子さん一人
 《花園コーラス練習日 2月17日(水)・2月24日(水)・3月9日(水)・3月16日(水)》
 * 本年度は、日曜日と月曜日になります。何卒、よろしくお願いいたします
- 4月8日(金) 花まつり(甘茶・抹茶をお出ししております)
 16時～ 子ども 花まつり
- 5月11日(水) 花園仏教世話方会主催 春の法話会
 講師 西尾市宿縁寺住職 織田慶雄 先生
- 6月20日(月) 養寿寺同朋会主催 初夏の法話会 お斎あり
 講師 岡崎市浄専寺住職 安藤伝融 先生

【楽しく学ぶ仏教セミナー】 場所:養寿寺庫裏
 日時:毎月最終日曜日夕方6:55~7:50 参加無料
 (1月と2月は中止させていただきます) 4月24日(日)
 5月29日(日)/6月26日(日)/7月31日(日)



蓮如忌 1



蓮如忌 2



花まつり



法話会



仏教セミナー